



## &lt;研究主題&gt;

児童生徒が自分で考え、もっと学びたくなる授業づくり

～学びの過程、内面の育ちに着目した授業研究～

9月22日に行われた公開授業研究会について、各学部の授業研究会で話題になったことを紹介します。改善点や指導助言を活かした授業づくりに今後も取り組んでいきたいと思えます。

## 【小学部】

## &lt;協議テーマ&gt;

## 遊びの楽しさや、隠れるおもしろさが分かって友達と遊ぶ姿

## ★単元名★

小学部1・2年 遊びの指導 「なかよしランド」で遊ぼう！

～おおかみからかくれよう～②

## ★授業説明★

- ・町をイメージした「なかよしランド」で、児童たちが好きな遊びを見つけて興味・関心を広げてほしい。
- ・事前授業研究会の意見を生かし、感覚遊びを取り入れた「お花紙のお風呂コーナー」や本物に近い「病院コーナー」を設置した。興味・関心やイメージを広げて友達とさらに関わって遊ぶ姿が見られた。
- ・「かくれんぼ」では「教師がおおかみに捕まる場面」を追加し、より自分たちで考えて動く姿、「怖いけど先生を助けたい」など心が揺れながらも教師を助けに行く姿などが見られた。



## ★協議から★

- ・自由遊び：子ども同士をつなぐ新しい遊びの提案をする。
- ・課題遊び：おおかみの振る舞い方の変化や児童が予期せぬ展開やハプニングを加えてみてはどうか。
- ・振り返り：児童の声や反応を引き出す言葉掛けをし、子どもの声や反応を評価として捉え、次時の導入に活用してはどうか。



## &lt;指導助言&gt; 秋田県総合教育センター 指導主事 牧野 幸枝 氏

## ○長い期間の繰り返しの学習

- ・夏休みをはさんだ長い期間の単元であるが、7月はみんなから一歩引いたところで教師に誘われて遊んでいた児童が、「〇〇先生おいで」と呼ぶ姿を見たときに彼らの成長を感じた。「見通しがたった」ことにより表れた行動であり、今、自分が何をやるのか、やるべきことは何なのか、「分かる」状態から出た自発的な行動だった。他の児童も、おおかみがやってきたときの表情から「かくれているドキドキ感」がよく伝わり、「繰り返し続けていくこと」の効果や良さを見ることができた。

## ○どういう姿が見られれば「大成功」か

- ・「遊びの指導」なのでめあては厳密には必要ないかもしれないが、それが分かる集団なので少しずつ「めあて」的なものを示して生活単元学習寄りの遊びに移行していても面白いかもしれない。
- ・課題や役割、誰かのために何かをするということを経験することで、できることが増えそうな集団なので、今後も適切な題材を考えていってほしい。

## ○体験と言葉を結び付ける

- ・教師が実際の体験と言葉を結び付けてあげることで生きた知識として残っていき、実感を伴った言葉になっていく。グループ協議でも「言葉（感想）を引き出す」ということが挙げられていた。自分の言葉で発信する機会を国語、自立活動の視点にもなるが、意識してほしいと思う。

# 【中学部】

## <協議テーマ>

自分で気づき、考えて行動する姿を引き出すための教師の支援はどうあればよいか

### ★単元名★

中学部1年 生活単元学習 LET 'S GO! 中1 ~もっと知りたい、追分地区~

### ★授業説明★

- ・前単元で生じた「疑問」について、もっと調べたいという生徒の声から、「計画、街探検、振り返り」の流れで計画した。「疑問」に対する予想や調べ方、まとめ方の計画を立てて街探検に出掛けた。調べ方については、話やインタビュー、インターネットなどの方法を取り入れたが、「分かった、そうなのか」という実感を大事にした。
- ・生徒たちは本時の目標である「掲示物を完成する」ことに向けて、頑張っていた。
- ・「字が汚い」と自己評価したHさんに対して、「そんなことないよ、前よりいいよ」と声を掛けたJさんに成長を感じた。



### ★協議から★

- ・失敗しないように手立てが講じられており、「できなかった」との評価が少なかった。適正な自己評価ができるように、支援を減らしてはどうか。
- ・小さなつまずきや失敗を繰り返すことで、経験を生かして対応していくのではないかと。自分で気付く設定をしてはどうか。

## <指導助言> 秋田県総合教育センター 指導主事 加藤 しおり 氏

- ・4月から丁寧に集団づくりをしてきたことから、生徒たちは安心して活動していた。実態に即して丁寧な支援や手立てがなされ、グルーピングも生徒の興味関心から作られており、魅力的であった。また、グループごとに、生徒に合わせたやり方で満足感を高める工夫が見られた。
- ・全体的に作業能力の高い生徒であり、見通しをもって活動に取り組めるようになった今であれば、支援や言葉掛けを減らせるのではないかと。また気づき、考えることを促す言葉掛けにより生徒に委ねることを増やし、そこから深い学びが得られるのではないかと考えた。
- ・学習指導要領に、学習評価について「どのような力が身に付いたのか、学習の成果を的確に捉えるもの、生徒自身が学習を振り返って次の学習に向かうことができるようになるためのもの、そして教師が指導の改善を図るためのもの」とある。評価することに一生懸命になり、評価のための評価になってしまったとき、教師自身の指導を振り返る視点がおろそかにならないように気を付ける必要がある。
- ・活動に「聞く、話す、書く」を取り入れるとき、授業のねらいと生徒のねらい、そしてその手立てを、その都度立ち返って丁寧に見ていくことが大事である。例えば読み書きが苦手な生徒に、「伝わりやすい発表の仕方を身に付ける」というねらいを立てたときには、発表の定型枠（これから～について発表します、など）を提示することで取り組みやすくなる。
- ・教師の見取る力を高めて、よりよい手立てを講じるために、子どもの内面を見ていく姿勢が大事である。

# 【高等部】

## ＜協議テーマ＞

生徒が自分で考え、判断して行動する姿が授業の中でどのように表れていたか

### ★単元名★

高等部3年 生活単元学習 「地域発信情報局 ファイナルステージ  
～目指せ！秋田マイスター 調査・発信編～」

### ★授業説明★

- ・本時は、「工芸品」「伝説」「金山木山」の3つのグループに分かれ、生徒たちが調べたことを高等部2年生への発表に向け、よりよい発表にするためのレベルアップポイントについて話し合いをした。提示授業は「工芸品」グループで、前時に撮影した動画を見ながら、より工芸品の魅力が伝わる方法について意見を出し合った。
- ・めあてについては、前回（事前研）の協議で話題になったレッツ型、クエスチョン型のうち文言をレッツ型で提示したが、生徒たちへ伝える際に、「～するにはどうすればよいか」考えるよう説明を加えた。しかし、その部分を丁寧に伝えようとしたため時間を掛け過ぎた。
- ・前回（事前研）は、グループ全員で話し合いをしたが、今回は話をより自分のこととして捉え、深められるように、さらに小グループに分けて話し合いをした。前回（事前研）は改善策についての話し合いであったため、マイナスの意見が多くなりがちであった。今回はレベルアップポイントを考えるということで、教師からプラスの働き掛けが多くでき、生徒たちは考えやすく意見が多く出たように思う。活発な話し合いになった反面、意見交換を切り上げず見守ったため、最後の振り返りがじっくりできなかった。



### ★協議から★

- ・活動内容に合わせたねらいの焦点化（生徒に伝える文言の精査）
- ・グループの導入をコンパクトにした活動時間の確保
- ・全体への配慮と個別の配慮のバランス
- ・子どもに活動させたい優先順位の検討（時間配分、めあてと振り返りからやりきった実感がもてる授業構成、授業のメリハリ）
- ・自分で判断する時間の確保（教師の働き掛け、待つ、しかけなどの量の調整）
- ・生徒の気付き・ひろい方・共有方法（ワークシートやタブレットのより良い活用）

## ＜指導助言＞ 秋田県総合教育センター 主任指導主事 北島 英樹 氏

### ○「個人のよさと集団のよさを生かした授業づくり～集団の視点から～」

- ・生徒の内面の揺さぶり、気持ちの揺さぶりが、生徒同士学び合い、高め合う場面を作り出す授業であった。このような場面を意図的に作り出し、どのような手立て、仕掛けをしてしていくのかを考えていくことが大事である。
- ・生徒が集団の中で役割を分担、協力し合い、意見を認め合い、仲間と一緒に目標を達成して欲しいということを目指し授業づくりを行っていると思う。このような生徒同士の関わりをつなぐ教師の役割、手立ての工夫が大事である。
- ・本時では、T1、T2の先生方の役割が明確になっていた。生徒の弱い部分をバックアップ、言葉掛けをして背中を押してあげるなどの支援、フォローが工夫されていた。また、教師の姿がモデルとなっていて感じる場面もあり、普段の関わり成果を感じた。前回からの改善点としたグループ編成や板書の工夫も生徒からたくさん意見を引き出すことに効果的であった。

### ○「めあてと振り返りの検討～目標・目的の共有化・明確化～」

- ・生徒の実態や学習を積み重ねてきた時間等を考慮し、授業構成を検討することも大事である。
- ・本時のめあて「魅力がより伝わる方法」の話し合いであるが、魅力を伝えるための内容の検討なのか、伝え方そのものの検討なのかという二通りの捉え方があり葛藤した生徒もいたのではないかと。そこを明確にすることで、より話し合いが深まったと思う。
- ・「活動あって学び無し」とならないために、どのような資質・能力を育てたいか、どんな知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等をどのように育てたいのかという観点がぶれないように、大事にして授業づくりをしていかなければならない。

